

出題分析		
試験時間 90 分	配点 学部により異なる	大問数 学部により異なる
分量（昨年比較） 〔現 増加 、古 増加 、漢 増加 〕		難易度変化（昨年比較） 〔現 難化 、古 同程度 、漢 難化 〕
<p>【概評】</p> <p>〈現代文〉第一問・第四問とも総字数がかなり増加した。一方、記述の総字数は、第一問は50字減で340字、第四問は昨年度と変わらず400字であった。設問については作問の意図が見抜きづらいものが散見され、解答も別解がいくつか出るような問い方がみられる。したがって、設問の意図を自分の培ってきた国語力で見抜き、それに沿って本文の言葉を適宜使用してまとめていけばよいだろう。</p> <p>〈古文〉本文の分量は昨年度よりも増加したが、一昨年度に大幅減少しているため、これで標準的な分量に戻ったと言える。設問は例年通りといえるものであった。出典自体も中世の王朝物語で昨年度の出典ジャンルと同一のものであった。和歌もなく物語としては読みやすいが、解答しづらい設問があったため、そこでどれだけ得点できたかがポイントであっただろう。</p> <p>〈漢文〉昨年度と比べ分量が三倍近くに増加。読みやすさは同程度。問一は昨年同様に四題出題。問二から問四にかけての、書き下し文を問う問題と現代語訳を問う形式も昨年と同じ。問五で説明問題を出題したのも例年通り。難易度は、昨年度よりやや難化した印象。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	「ホンモノ」と「ニセモノ」（真贋）についての考察	文章Ⅰと文章Ⅱを組み合わせた問題（Ⅰ・Ⅱとも同一出典）。設問を解釈して、文章Ⅱをどこまで考慮して解答を作成するかがポイント。	難

設問別講評			
二	古文 『あきぎり』 (鎌倉末期?・擬古物語)	<p>問一 例年出題される品詞分解に関する出題。特段、難しいところから出題されているわけではないので、しっかり得点したい。</p> <p>問二 こちらも定番の主語判定の問題。どちらも素直に読めば答えは出るか。①の方は、直後の会話文の話し手も宰相の乳母であるため、別人を入れる可能性はあるか。</p> <p>問三 内容説明。リード文にヒントがあるため、難しくなく答えが出せる。</p> <p>問四 目的を問う問題。普通どおりに振る舞うことを勧めるのは、いま普通どおりに振る舞っていないから。それはなぜかを考えると、自ずと答えは出てくるだろう。</p> <p>問五 現代語訳。解答欄が二行あるので、指示語の内容はかなり具体的に書ける。</p> <p>問六 発言の理由説明。直前に一つ理由が述べられているが、制限字数に余裕があるため、もう一つ理由を挙げたい。</p>	標準
三	原念斎『先哲叢談』	<p>問一は接続詞や助動詞などの読み方。</p> <p>問二は書き下し文と現代語訳とを問う。白文での出題。「以A為B」の構文がポイント。</p> <p>問三は書き下し文問題。返り点つきである。</p> <p>問四は現代語訳問題。「不可一日～」と「～者是也」の構文がポイント。</p> <p>問五は理由説明問題。傍線部を含む賊の発言内容と、その直前の仁斎の発言内容とを軸にして、問二・四などを参考に肉付けするとよい。</p>	同程度 同程度 同程度 難化 難化
四	社会の変容とそれに呼応するNPOの関係について	本文の該当箇所を組み合わせれば下書きはある程度書けるが、百字以内にはなかなか収まらないので、どの語句を残し、どれを削るかの判断が重要。	標準

合格のための学習法

〈現代文〉国公立で一番長いといっても過言ではない問題文を制するには、とにかく過去問を解くのが最も合格への近道である。もし手に入るならば十年分以上を解いていくのがよい。他の国公立の過去問でも記述の対策はできたとしても、長文を読解するスピードも鍛える必要がある。

〈古文〉奇をてらった設問が出題されることはあまりなく、非常にオーソドックスな国公立大学二次試験の設問が中心である。そのため、まずは高校での古文の学習を基本に置こう。本文は物語が中心であるが本文自体が難解であることは多くない。ただ、単語・文法・現代語訳・説明問題と多岐にわたる設問が出題されるので、それぞれの設問別に答案を作成するトレーニングを重ねることは重要となる。例年、主語判定をさせる設問が出題されることが多いが、物語を読解するためには主語が誰であるかを確定する作業も重要である。種々の物語を読むことも普段の学習の中に取り入れたい。また今年はお題されなかったが、例年、和歌の出題も多い。修辞法を含め、和歌に関する学習も深めておきたい。

〈漢文〉副詞・接続詞・多訓多義語などの知識や句法は、共通テストのレベルを上回るものではないが、選択肢に頼る学習ばかりしていると、思わぬ取りこぼしが生じる。自力で書き下し文を作って、現代語訳をするという訓練を積んでおくとよい。説明問題では、限られた紙幅の中にいかに簡潔にまとめるかが求められる。これも日々の訓練が大切である。しばしば漢詩が出題されているので、漢詩対策も必須である。新潟大の過去問はもちろん、同レベルの国公立大の過去問にもチャレンジして、答案の添削を受け、再度答案を作成するという訓練を、地道に積み重ねることこそが、合格の近道といえる。